

O-1-33 当院におけるチームアプローチと動的ナビゲーションの実践

Clinical Implementation of a Team-Based Approach and Dynamic Navigation in Implant Dentistry

○三計 彩那、濱田 美紀、矢野 麻知子、原田 和、磯邊 和重
 ○MITO A, HAMADA M, YANO M, HARADA N, ISOBE K
 東京形成歯科研究会
 Tokyo Plastic Dental Society

I 目的：インプラント埋入手術は2D画像診断・フリーハンド埋入から始まり、3D画像診断・サーボカルテンプレートなどの静的ガイドシステムに加えて動的ナビゲーションシステムの活用が拡大している。今回、術前の準備から術中操作に至るまでの各ステップにおける動的ナビゲーションシステムを活用していく上での変化や当院で行っている工夫について報告する。

II 症例の概要：動的ナビゲーションシステムはCT撮影、治療計画、キャリブレーション、手術の4つのステップに大別される。CT撮影は事前準備として、埋入予定部位や残存歯の状態を考慮した安定感のあるクリップの製作、撮影時には埋入予定部位とクリップ双方が確実に撮影範囲に入っているかの確認、キャリブレーションにおいては正しい手順での正確なキャリブレーションをし、誤差がないかの確認作業、手術中はライトとトラッカーがなるべく平行になるよう位置付けを行うなど各ステップにおける当院での工夫をまとめた。

III 考察および結論：動的ナビゲーションシステムを使用する事によりオペレーターは計画通りの位置、角度、深度で正確にインプラント体を埋入する事が可能となった。しかしその精度を担保するためには、正確に撮影されたCTデータ、誤差のな

いキャリブレーション、術中の安定したライトの位置付けが必要である。私たち歯科衛生士は手術時のアシスタント技術はもちろん、CT撮影の準備、キャリブレーションなどの術前準備を正確に行う技術や工夫が求められている。

O-1-34 医療デジタルトランスフォーメーションにおける診療支援体制の構築と歯科衛生士の役割

Development of clinical support systems in the digital transformation of healthcare: the role of dental hygienists

○下平 律子¹⁾、岡本 可奈¹⁾、吉村 聖奈¹⁾、浜田 真衣²⁾、椎谷 由香²⁾、新井 優花²⁾、今村 康治²⁾、上松 隆司¹⁾
 ○OSHIMODAIRA R¹⁾, OKAMOTO K¹⁾, YOSHIMURA S¹⁾, HAMADA M²⁾, SHIIYA Y²⁾, ARAI Y²⁾, IMAMURA K²⁾, UEMATSU T¹⁾

¹⁾ 東京形成歯科研究会、²⁾ 関東・甲信越支部

① Tokyo Plastic Dental Society, ② Kanto-Koshinetsu Branch

I 目的：医療デジタルトランスフォーメーション（医療DX）とは、デジタル技術を活用し、医療の質と効率の向上を目指す取り組みである。インプラント治療においては、情報の氾濫により患者が不安を抱くことが少なくないため、医療リテラシーの向上と医療従事者による適切な情報提供が求められる。本研究は、患者視点に立った説明、インフォームド・コンセントの取得、診療内容の可視化、業務分担、チーム医療による包括的な診療支援体制の構築を目的とし、医療DX推進における歯科衛生士の役割について考察したので報告する。

II 方法の概要：当院では、インプラント治療におけるデジタル歯科医療の導入に伴い、診療機器のデジタル化と医療DXを次のように推進した。

- ① 受診前にAIチャットを活用して患者が治療概要を把握できる体制を整備
- ② 初診時には口腔内写真、口腔内スキャナー（IOS）、デジタルX線撮影により口腔評価を実施
- ③ 視覚的資料を用いた説明
- ④ 口腔外科専門医、歯科麻酔専門医、歯科衛生士、歯科技工士、歯科助手による症例検討会（インプラント・カンファレンス）の実施

⑤ 患者に説明の上、インフォームド・コンセントを取得

⑥ インプラント・デジタル・ワークフローに基づき、術前・術中・術後の周術期対応および術後メインテナンスを実施

III 考察および結論：デジタル技術の導入により歯科衛生士の役割として、

- ・スタッフ間での情報共有を円滑にし、治療・メインテナンスの再評価に関与する
 - ・インプラント・カンファレンスを通じて各症例の治療方針を把握し、術後メインテナンスに至るまで患者と円滑にコミュニケーションを図る
 - ・IOSを用いた画像説明を患者指導に活用する
 - ・症例情報を共有し、患者との信頼関係構築に寄与する
- などが挙げられる。今後はFrequently Asked Questions(FAQ)などを活用し、専門用語を避けたわかりやすい情報発信を行うことで、インプラント治療の理解促進と説明の効率化が期待される。
- （治療はインフォームド・コンセントを得て実施した。また、発表についても患者の同意を得た。倫理審査委員会番号17000114承認、承認番号25308）